

二〇二四年一月一九日

檻樓市に座すヒマラヤの佛かな
鈴懸の実の散り敷きし遊歩道
さしのべし手に雪虫のとどまらず
着膨れに頭出てをる抱つこの子

澄子
あひる
かえる
康子

二〇二四年一月一八日

庭の木々四温の雨に息づきぬ
春障子尾を立てよぎる猫の影
湿原の涸れて歩板の軋む音
連鎖して逆立つ鴨の尻をかし
土蜂の巣白く凍てゐる百度石
位牌守り遺愛の木々に寒肥す

満天
みきお
むべ
えいじ
なつき
うつき

二〇二四年一月一七日

夜半更けて湖凍りつつありし音
海風に総身で応ふ水仙峡

素秀
千鶴

二〇二四年一月一六日

シングルの姉妹となりて女正月
鴨翔ちし飛沫や池のショーのごと
手料理をあひ持寄りて女正月
寒きびし寝耳に水の訃報かな

たか子
康子
こすもす
うつき

二〇二四年一月一五日

皮むけば輝く白や八頭
どんど火に燻つてをる狐面
己が肩みづから叩き冬籠
袋糶凍風の吹く魚市場
老い二人あれこれそれと初笑ひ
受験子に握る小さき塩むすび
乱れ打つ太鼓に猛るどんどの火
黒帯を指して子らの寒稽古
どんど燃ゆる里山百選守り継ぎ
狼藉や囊地を打ち吾を打ち

むべ
なつき
うつき
みきお
明日香
むべ
康子
かかし
うつき
むべ

二〇二四年一月一三日

頑張れと言はぬ応援受験子に
昇竜のごときどんどの炎かな
落暉いま金塵の舞ふ枯野道

あひる
康子
むべ

毎日句会みゆる選・二〇二四年一月二日